

企業は原則倒産、倒産を避けるためには
- 高井伸夫弁護士、春夏秋冬社長塾で考える -

開倫塾
塾長 林 明夫

はじめに

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

今日は、大人向けの話をさせていただきます。この放送をお聴きの皆様の中には、会社にお勤めの方、企業を経営なさっている方がいらっしゃると思います。今は大不況の只中ですが、その状況の中で企業の経営・組織の経営をどのように考えたらよいかをお話させていただきます。

5月26日に東京の九段会館で、弁護士の高井伸夫先生が主催する「社長塾 - 春夏秋冬」という会合が4時間近くありました。全国から70名ぐらいの経営者の方々が集まり、「大不況の下で、どのように企業あるいは団体の経営をしたらよいか」について考えたのです。私は、その中でパネルディスカッションのコーディネーターをさせていただきました。

2. とても有名な弁護士である高井伸夫先生からは、「企業は原則倒産である。企業は倒産であるから、放っておくと、昨日(きのう)のように今日(きょう)があり、今日のように明日(あす)があればよいと考えていると、明後日(あさって)はない。これが企業の経営であるから、大不況の今日(こんにち)こそ企業の社会的責任として企業の存続を図るべきである。企業の存続を大義名分として、あらゆる企業活動をすべきである。」という旨のお話がありました。

その中で一番大事なのは、新規顧客の開拓とその会社をこれまで信用してくれた既存顧客の掘り起こしである。つまり、お客様にとって利益のある・お客様に貢献できる商品やサービスを、お客様一人ひとりの顔を思い浮かべながら・満足を図りながら行うことが大事であるというのが高井伸夫先生のお話でした。

3. 次に、サクラクレパスの取締役である辻さんから満足も大事であるが、プロフィタブル(profitable)な顧客満足も大事である。プロフィタブルとは、利益になるという意味。何でもかんでもお客様のためになると思い込んで、あまりにもさまざまなものを商品やサービスに付け加えることは利益を著しく損ねるので、今の時代は避けたほうがよい。というお話がありました。

4. さらに、その会合の発起人の一人であり、日本最大のビジネス系オンラインマガジン「平成進化論」を365日毎日、30万部以上発行し続けている鮎谷周史さんからは、既存顧客へのサービスとして価値ある情報提供としては、平成進化論のようなメールマガジンを発行したり、インターネットを活用することも大事であるという旨のコメントがありました。

ちなみに、「平成進化論」のヘイセイは平成時代の平成、シンカロンはダーウィンの進化論です。これで検索すると登録でき、お正月もお盆も休みなく毎日メールマガジンが届きます。これには仕事に関する知恵などがたくさん載っていますので、とてもおもしろく、私も毎日見えています。

5 . この後、高井伸夫先生から非常に言いにくいことだが、企業の存続のためには、賃金や役職手当などさまざまな手当の見直しもすべきである。もし会社が潰れそうな状態であるならば、それらを下げてもいたしかたないのではないかととても厳しいお話がありました。

6 . さらに、この後、パネラーのキャノン電子工業株式会社社長の酒巻久さんが受注量が激減して売上が半減しても、一番大切なのは社員の雇用を守ることである。これが企業の社会的責任として大事であるとお話されました。

あらゆる経費の削減・仕事の仕方の見直しを行って生産性を上げ、また、銀行の協力を仰ぎながら、例えば社員に支払う給料分が足りないのであればそれをお借りして、夜が明けるのを待つ。このようにして雇用だけは守る。雇用の維持のためには、賞与や手当、賃金の一時的なダウンもやむを得ない。では仕事が少ないときはどうしたらよいかというと、そのようなときこそ研究開発や内部体制固めを集中的になすべきである。

このようなことを、酒巻さんはおっしゃっていました。これもまた、すばらしい考えであると思います。

7 . ドラッカー先生は経営の神様と言われていますが、その「日本ドラッカー学会」代表の上田惇生さんが、ドラッカーなら、今の時代に何を教えてくれるかというお話をして下さいました。

どのようにしたらものが売れるかというマーケティングとどのようにして改革を進めるかというイノベーションとを組み合わせることで生産性を向上させ、働く人々に優しい職場をつくるのが大事である。また、今は資本主義が否定されつつあるが、資本主義が否定されれば当然社会主義になる。そして、次は全体主義になってしまう。つまり、資本主義を否定し、社会主義を否定すれば、全体主義への道しか残らない。そこで、全体主義への道を避けるためには、人々が共に学び合いながら働く企業社会・産業社会を目指すべきであるという発言がありました。

8 . どのような企業経営をしたらよいかということについては、ミキハウスの社長である木村皓一さんが「既成概念を捨てること、売り先を絞り込むこと、スピードを迅速にすること」と強調されました。

ミキハウスでは、本社の社員の方は月・火・水の3日間だけ本社に勤務して、木・金は週休2日のため休み。土・日はShopつまり店舗に全員が出掛けて、現場で働くようにしているそうです。そうすると、お客様に何が一番望まれているのかを全社を挙げて知ることができるからおっしゃっていました。

また、ミキハウスでは、柔道の野村選手をはじめ多くのオリンピック選手を育成しています。これは売上には貢献しませんが、社員の一体感と「やればできるんだ」という気持ちを育てるのに役に立っているとのことでした。

おわりに

9 . すべてのお話が、非常に勉強になりました。

今日は弁護士の高井伸夫先生が主催なさっている「社長塾 - 春夏秋冬」の会合が5月26日に東京の九段会館であり、私がパネルディスカッションのコーディネーターをさせていただきましたので、そのお話をさせていただきました。

皆様はどのようにお考えになったでしょうか。